

体で覚えたこと（手続き記憶）は衰えにくい

手続き記憶とは長期記憶の一種で、時間をかけて学習したこと（自転車の練習、楽器の練習など）で、いわゆる「体で覚えた記憶」のことです。「手続き記憶」は認知症の方に残りやすい機能の一つです。この機能を引き出し、活かす介助が大切です。

ヒント

スタッフ同士で、回想法を視点とした会話を実施してみましょう。この際、記憶、感情、感覚、人生の振り返りなどの要素を高める（深める）ことを意識して会話を展開してみましょう。

手続き記憶を引き出す物品



釜でご飯を炊く



釜からご飯をすくう



漬け物作り

（漬け物樽の上で切っているので漬け物を作っていることを忘れずにいられるため、漬け物に適した大きさに切ることができる）



足踏みミシン

手続き記憶 = 「昔とった杵柄」を生かす

各写真提供 / ありがとうグループホーム

畑づくり



苗を植える



土を耕す



収穫



収穫

ボランティア



近隣の草取り

調理

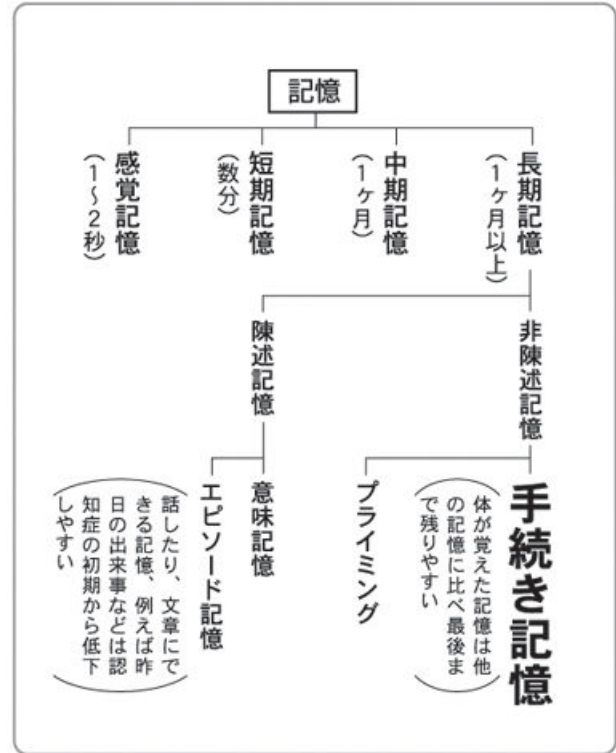


枝豆を切り分ける

今までにしていた「自分の動き」を自然に誘発する介助をしよう

認知症の方は記憶障害を起こしやすいのですが、記憶の中でも手続き記憶は比較的后まで保たれやすい記憶となっています。そのため認知症の介護では手続き記憶を活用する介助、手続き記憶を引き出す介助が有用となります。

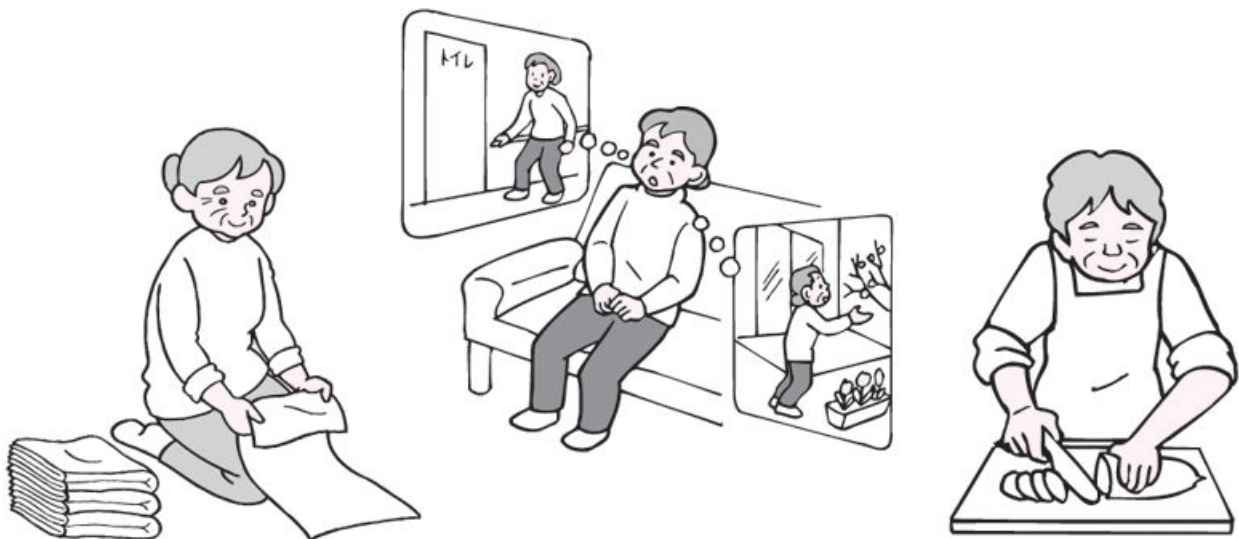
認知症の方の介助では、生活の中で何回も繰り返してきた自然な動作を引き出す介助が有効です。



手続き記憶を引き出す介助

本人が「昔からしていたこと」を「していた方法」で行ってもらえるように介助していくことが大切です。

そのためには、どんなことをしていたか、どんな方法でしていたかを知ることが必要です。



介助

手続き記憶を誘発する介助

○ 食事の介助



上肢の動きがインプットされるため補食動作も出やすい



動きの感覚(関節覚、運動覚)も入らないため意識レベルも下がりやすく食べにくい

○ 一緒に食事をする場合



右側に座って食事動作を見せながら食事をとる



いったん食事動作が止まり、意図動作が出にくくなると食事ができなくなりやすい

○ 飲み物の介助



上肢の動きがインプットされるため補水動作も出やすい



上肢の動きがインプットされないため、唇や顎なども不自然な動きになりやすい

見てわかるシリーズ⑧

実践 認知症ケア1

- 1 ケアの基本的な考え方
- 2 認知症の介護技術
- 3 BPSDへの対応
- 4 認知症のケアプラン

妹尾弘幸 著

この続きは、株式会社QOLサービス発行の
「実践！認知症ケア」にてご覧ください。

【購入方法】

- ・株式会社QOLサービスの書籍通販サイト「DAY Shop」より
お買い求めいただけます。

<http://daybook.shop-pro.jp/?pid=16915312>



【書籍のお問い合わせ】

株式会社QOLサービス

TEL: 084-948-0439 FAX: 084-948-0435

QOLサービス 通販

検索

- ・「実践！認知症ケア研修会2012」の横浜会場・大阪会場にて
見本誌を設置いたします。通販でしか購入する機会がない書籍
ですので、ぜひご来場いただきお手にとってご覧ください。